
バッティングロボ

雪野揉実二

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バッティンググローブ

【Nコード】

N5207S

【作者名】

雪野揉実二

【あらすじ】

現代のプロ野球界に送り込まれたのは、未来からやって来た1人の男。

彼が持つ秘密と、秘密に隠された見えない試みとは？

(前書き)

この作品は、私自身がブログに書いた物を、そのままコピーした物です。

「おい！鈴木！代打いくぞ！」

「わかりました。監督」

俺の名前は、鈴木一郎。もちろんアメリカで活躍しているメジャーリーガーさんではない。

俺が、いるのは日本の野球界だ。そして俺には、秘密がある。

俺は、この時代の人間ではない。未来からやって来た。

未来には、野球なんていうスポーツは、もはやない。

俺は、この過去の産物になってしまったスポーツに興味があつて、この時代へやってきた。

俺の名前は、この野球とかいう訳のわからないスポーツ好きな親父が名付けた名前だ。

適当にもほどがある。まあ、同じ鈴木姓だったのは出来すぎた話しだが。

過去に来ることなんて、未来の人間からすれば、金さえあればなんてことない。

未来は、金さえあればなんでも出来る世の中。

過去に来て、野球界に入るなんて……そうだな、この時代のやつにわかりやすく言うと

コンビニ?とか言う不便な建物に買い物に行くようなものだ……
と言えはわかりやすいかな? (笑)

さてさて、それより今日の仕事をしてくるかな。

「おい!コーチ!」

「なんですか?監督」

「どうなんだ?あの代打ロボットは」

「いや、良くもなく、悪くもなくって感じですね。

でも、あー毎日毎日ニヤニヤされたんじゃ気味悪いっすよ」

「仕方がないよ。自分は未来の裕福な家庭から来たすごい人間だとプログラムされてるからね」

「はあ、可愛いそうな話ですよ……それって。やっぱり、シーズン終わると廃棄……ですか?」

「そうだな、この成績だし、チーム自体の成績も良くないからね」

「あれ？監督どちらへ」

「トイレだよ。。。はあ〜」

大きな溜息をついた監督は、下を向いてトイレへと歩いていく。

「おい、コーチ」ベンチの裏から女の子のような、か細い声で誰かが呼んでいる。

「おい、コーチ」

「あれ？オーナー！な・何してるんですか？こんなところで。まずいですよ」

「いや〜もうドキドキで、スタンドでなんか見てられないんだよ。

こんなんじゃない廃棄は免れんぞ。それでどうなんだ！あのロボットは

「でも、鈴木は、よくやって・・・」

・
・
・
・
・

• • •

「いや、監督の方だよ」

(後書き)

どこにでもありそうな内容のもので、二番煎じどころか、三番、四番というところですが、投稿してみました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5207s/>

バッティングロボ

2011年10月9日00時33分発行